

農 大

だより

令和7年2月28日発行
愛知県立農業大学校

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1-2
Tel: 0564-51-1601 Fax: 0564-51-4831
E-mail: noudai@pref.aichi.lg.jp
ホームページ: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>

令和6（2024）年度版



海外派遣研修



CONTENTS

- 1 特集 海外派遣研修
- 2 専攻トピックス
- 3 令和6年度農業技術研修修了
- 4 令和6年度あいち農業経営塾修了
- 5 トピックス
第5回進路セミナーを開催、
生産高度化研修（ジネンジョ）を開催

愛知県立農業大学校
公式HP



Instagram



X（旧 Twitter）



オーストラリアでの「海外派遣研修」



2025. 1. 30 シドニー：ダーリング・ハーバー

令和7年1月27日（月）から2月2日（日）までの6泊7日で、令和6年度の海外派遣研修を実施しました。学生達は真夏のオーストラリアで農業事情を学び、言葉の壁を乗り越えながら、ホストファミリーとの絆を深めることができました。往路途中にベトナムも訪れ、様々な国の文化も学ぶことができました。

参加した2年生85名は、異なる文化や生活習慣に戸惑いつつも、日本では得られない文化や体験を享受できたことは一生の思い出になったと思います。卒業後もこの経験を活かしてくれることを期待しています。

【1月27日（月）中部国際空港 → ベトナムホーチミン】

ベトナムのホーチミンでは統一会堂・中央郵便局を視察し、ベトナムの歴史について学びました。翌日に旧正月を迎える準備で市内は煌びやかに装飾が施され、アオザイ姿の人々も多く見かけました。夕食はベトナム料理でしたが、独特の味付けに苦戦する学生の姿が見られました。



【1月28日(火)ボーラル】

シドニー空港到着後、ファームステイのためボーラルに向かいました。シドニーは最高気温が 40℃を超える猛暑日で、バスの不具合により遅れが生じたため、バスごとの対面式となりました。

酒井教育部長の英語での挨拶の後、ホストファミリーとの対面です。皆とてもフレンドリーで、お子さん連れで迎えてくれたファミリーもありました。学生は大きな声で挨拶、ボディランゲージでやり取りするなど一生懸命にコミュニケーションを取り、各ファームへ出発です。



【1月28日(火)～1月30日(木)ボーラル】

ファーム滞在中は農作業のほか、食事や余暇を一緒に楽しむこと、食事やお菓子作り、周辺農家等の見学、カンガルー等の野生動物を観察する機会もありました。短期間で体験するプログラムでしたがとても充実していました。ホストファミリーからは、学生が予め作業できる服装で準備できていることや、飼養・栽培管理の手際良さ、作業で汗をかくことや汚れることを厭わない姿を称賛していました。



【1月30日（木）ボーラル ホストファミリーとのお別れ】

楽しい時間はあっという間に過ぎてしまい、涙や笑顔でホストファミリーとハグするお別れの姿が印象的でした。ステイ先の子ども達とも仲良くなり、中には、また遊びに来たいといっている学生も。この出会いを今後も大切にしてくれると思います。



【1月30日（木）～1月31日（金）シドニー】

シドニーでは複数のグループに分かれ市内見学を行いました。タロンガ動物園とマンリービーチや、ブルーマウンテンズを訪れるツアーに参加したり、セントメアリーズ大聖堂やオペラハウスなど思い思いの場所を訪れていました。



【2月1日（土）～2日（日）シドニー → ベトナムハノイ空港 → 中部国際空港】

シドニー出発日にパスポートの一時紛失がありましたが、全員が無事帰国できました。学生たちは、ファームステイでの経験やお土産をいっぱい詰め込んだスーツケースとともに帰路につきました。

専攻トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！

○専攻別学生数

（注）カッコ内は女子の内数

区分	鉢物・緑花木	切花	作物	果樹	露地野菜	施設野菜	酪農	養豚・養鶏	計
1年	6(0)	8(2)	6(1)	13(3)	13(4)	15(2)	9(4)	6(6)	76(22)
2年	6(2)	5(1)	9(2)	15(5)	14(7)	14(3)	15(6)	10(3)	88(29)
計	12(2)	13(3)	15(3)	28(8)	27(11)	29(5)	24(10)	16(9)	164(51)



鉢物・緑花木

これからの直売は僕たちに任せて！

2年生は卒業を控えて専攻実習が終わり、先月から1年生が実習販売を仕切っています。商品の決定、準備、接客、会計など、責任の伴う内容が多く、特に接客や会計は緊張する様子もみられますが、みんな積極的に取り組んでいます。お客様がたくさん来てくださると、1年生6人だけでは慌ただしくなりますが、達成感を得られてとてもうれしそうです。花も学生も生き生きとしているのでぜひ見に来てくださいね！



切花

バラも生育順調です

農大の冬は、バラにとっては厳しい環境です。例年なら、暖房があっても収量や品質が低下してしまうところですが、今年は収量・品質ともに順調で、もりもりと収穫できています。

この理由として考えられることが2つあります。1つ目は、昨年秋に、温室天窓の汚れたガラスを新品のフィルムに張り替えたことにより、日当たりが大きく改善したことです。2つ目は、同化(光合成)専用枝の密度を高くして栽培していることです。同化専用枝が多ければ光合成量も増えるので生育は良くなりますが、病害虫の発生リスクも高まり、管理が難しくなります。しかし、今年の学生は管理が上手で、多くの同化専用枝を維持しつつも病害虫の発生を抑えた状態を実現できています。





作業効率の改善に向けて

出荷作業は効率が大切です。学生は実習の時間内に作業が終わるように毎回頑張っています。最近は時間に余裕があるため、学生は出荷作業の効率化を図るための補助器具を自発的に作り始めました。学生が問題を認識し、自ら課題を立て、解決するため行動を起こしたことにととても感心しました。今後も様々なことに興味、疑問をもって行動できるように頑張ってもらいたいです。



2年生で最後の校外学習を実施！

施設野菜専攻の2年生のみなで最後の校外学習に行きました！今回は豊橋市のミニトマト農家さんと東三河農業研究所を視察しました。

農家さんからはミニトマト栽培についてだけでなく、経営者としての立ち回り方や人脈作りの大切さについて学ぶことができました！東三河農業研究所ではトマトの裂果防止対策についての研究やミニトマトの高単価時期の収量増加を目指す研究などについて説明を聞き、農大でも実践してみたいと思いました！



校外学習で酒米について学ぶ！

2月21日（金）に校外学習として尾張方面に出かけ、酒造りのことを中心に学びました。農業大学校でも酒米を作付けしており、自分たちが作ったお米がどのように活用されているのかについても学ぶ機会となりました。また、作ったお米の見た目上での変化や香りを体感することもできました。





来年度に向けた準備

果樹専攻では肥料の散布やハウスの補修作業、たこつぼ深耕など地味な作業から圃場の耕運や暗渠排水を作るなどの作業をしています。

たこつぼ深耕は、深さ 40 cm以上の穴を掘り有機物を施用することで土壌の物理性を改善するために行うものです。この作業は今回やれば終わりというわけではなく穴の場所を変えながら数年かけて行います。かなり力のいる作業で学生も疲れるのか交代しながら穴を掘っています。1年目でいきなり効果が出るようなものでもないのですが少しがっかりするかもしれませんが、数年後の果樹専攻のため頑張ってもらっています。



牛の係留場所を作りました

本校には牛を係留し、牛体を洗うことができる場所がありませんでした。今までは飼料タンクの柱に係留し洗浄していましたが、この場所に設置できる動力噴霧器では洗剤の吸い上げができず、水洗いしかできませんでした。

そんな状況を見かねて、卒業する2年生が牛の係留場所を新しく作ってくれました。この係留場所なら洗剤を吸い上げられる動力噴霧器を使って、効率的に牛体を洗うことができます。地面が土でぬかるんでしまうため、今はまだ使うことができませんが、春を迎え草が生えてくるころには活用できるようになると思います。暑熱対策や共進会出品牛の管理などに役立てたいと思います。



肥育豚がぐんぐん育っています

養豚では一般にランドレース種と大ヨークシャー種を交配した一代雑種(F1母豚)にデュロック種を交配して三元豚といわれる肥育豚を生産しています。農大では、愛知県が系統造成を行ったランドレース種であるアイリスL3、大ヨークシャー種のアイリスW3、デュロック種のアイリスナガラを利用して三元豚を生産しています。

昨年度は豚舎の長寿化工事のため、肥育豚の飼養頭数を一時的にゼロにするなど飼養頭数を極端に減らしましたが、昨年度末にこれからの活躍が期待される育成F1母豚を畜産総合センターから導入するなど体制を整え、現在これらの母豚が生産した肥育豚が順調にぐんぐん育っています。

今後は、アイリスL3やアイリスW3を利用してF1母豚を自家生産し、母豚生産と肥育豚生産の両方を行う通常の体制を整えて行く予定です。



令和6年度 農業技術研修修了

農業技術研修の閉講式を1月29日（水）に行い、研修生25名が修了を迎えました。この研修は、離職を機に新たに農業を始めようとする方々を対象に、岡崎高等技術専門校の「愛知県雇用セーフティネット対策訓練農業技術研修科」として本校で行っているものです。

令和6年5月8日から9か月間、真夏の猛暑日や風雨の日も休むことなく延べ158日間（合計930時間）にわたって行われました。

閉講式に先立ち、1月10日には各グループで取り組んだ、ハクサイ、ダイコン等の露地野菜に関するプロジェクト発表会を行い、研修で習得した栽培の知識をしっかりと発表することができました。さらに、1月28日には卒論発表会を開き、全員が今後の就農への決意や経営方針等について発表しました。

修了後の進路は、独立自営就農する人、農業関連法人に就職する人など様々です。各地域の皆様の新たな仲間となりますので、今後とも御支援、御協力をよろしくお願いいたします。



研修を修了して（研修生から）



【戸川智幸さん】

農業にチャレンジしたいが具体的にどうしたらいいのかわからない人にとって、この研修は技術と知識を習得する絶好の機会となるでしょう。私自身、この研修を通じて得た技術と知識を、今後の農業活動に活かしていこうと考えています。これからも多くの新規就農者がこの研修を通じて成功への一歩を踏み出せるよう願っています。



【浅井隆雄さん】

親から農業機械と広大な農地を引き継ぎましたが、その多くが耕作放棄地となっていました。定年を迎え、この研修を受講しました。研修では、露地野菜を中心とした栽培や販売の実習に加えて、植物生理、土壌、農薬、肥料など多岐に渡る講義があり、毎日新しい知識が増えました。興味とやる気のある方は、ぜひ受講してください。



【岡田正恵さん】

「いつか農業をやりたい」とずっと思っていました。農地も知識も無い私の夢はただの夢でしかありませんでした。しかし、偶然この研修のことを知り受講しました。最初は鍬の扱いから始まり、先生方の丁寧な指導のもと修了する頃には、露地野菜栽培に必要な一連の作業ができるようになりました。修了後は本格的に農業を始める予定です。



【松井ももさん】

前職での経験から、調理技術だけでなく栽培技術も学びたいと思いこの研修を受けました。農業経験が全くなかった私ですが、農業の大変さを学ぶ中、作物ができる喜びを知りました。この経験を通じ、蒲郡市でみかん農家を目指そうと思っています。何事もチャレンジしてみるべきだと思っています。素晴らしい先生方や仲間が、待っていますよ。



【小原賢悟さん】

実家は兼業農家です。会社勤めしていた時、家の手伝いはほとんどしませんでした。両親はもうすぐ後期高齢者、今のうちに農業技術や経営を基礎から学びたいと思い、この研修を受けました。何をどうすればいいのかわからなかったのですが研修を通して「何とかかなりそうだ」と見通しがついてきました。興味のある方、受講をお勧めします。

令和6年度 あいち農業経営塾修了

2月14日（金）、令和6年度あいち農業経営塾の経営計画発表会及び閉講式を開催しました。本年度は、22名の受講生が8月28日からの約半年間、全12回の講座を修了しました。

講座の前半では、専門家による財務管理、労務管理、マーケティングなどの農業経営に必要な講義を受け、知識を深めました。後半は、中小企業診断士の指導を受け、SWOT分析やグループ討議、個別面談などにより、5年後を目標とした経営計画を作成しました。

経営計画発表会では、受講生同士の質疑応答が活発に行われ、中身の濃い発表会となりました。なお、閉講式では、本校校長から一人ひとりに修了証書が授与されました。



研修を修了して(研修生から)

- 経営計画を作って、今後、自分がやるべき事をはっきりとさせることができた。
- 今後の指針を改めて見直す良い機会となった。自分に何が足りなくて、何がわからないのかを考えることができた。
- 農業は、まだ先がある必要な事業だと実感した。未来が見えたので、やるべき事が定まった。
- 農業を経営者としての視点で見ることが重要。作るのみでは、良い経営ができないと理解した。
- 講座でいろいろなことを勉強し、知らない状態と知っている状態では天地の差があると感じた。
- 講座に参加して、当社がどれだけの問題を抱えているかをきちんと把握でき、今後の成長につながると思った。
- 経営に関する専門的な知識を得ることができ、経営という視点で物を考える良い機会となった。
- 法人化やコーチング、帳簿の見方など自分が今後経営の舵取りをする時に役立つ知識を得た。
- SNSの活用の仕方など、とても興味深い内容だった。
- 他の作目の方の課題や販売方法を聞く機会がなかなか無いため、とても良かった。
- 経営計画を作成するにあたり、中小企業診断士の方に個別に相談させていただくことができ、とても有り難かった。
- 大きな学びとなった。今後、後輩にも勧めたい。

トピックス

第5回進路セミナーを開催しました

2月6日(木)、1年生を対象に今年度最後となる進路セミナーを開催しました。

今回は、「面接の心得」と題して、ハローワーク刈谷から拝借したDVDで、エントリーシート の書き方のポイント、企業研究、想定外の質問対応など個人面接の対策を学びました。また、求人票の記入例を参照しながら各項目の見方を確認しました。

2月末には合同就職相談会も控えており、学生達は真剣な表情で受講していました。

今後、面接本番を想定した「模擬面接会」なども計画し、学生の就職を支援していきます。



生産高度化研修(ジネンジョの生産安定)を開催しました

2月12日(水)、愛知県じねんじょ主産地協議会と本校との共催で「ジネンジョの生産安定」をテーマに研修会を開催しました。県内の生産者及び関係機関から114名の参加がありました。

研修会では、①山間農業研究所 甲村技師から「ジネンジョの研究成果の報告」、②犬山東部じねんじょ部会 宮島部会長から「『夢とろろ』で農の六次化をめざして データから可能性を考察」、③ファーン・コンサルティングオフィス 小久保代表から「ジネンジョ六次化の段取りと留意点」の各講演がありました。

今回は、HACCP の考え方を取り入れた食品の衛生管理を学び、受講された皆さんの真剣な表情が印象的でした。

最後に、農業総合試験場の松浦専門員を座長に、総合討議が行われ、六次産業化等による『夢とろろ』のブランド化を目指した犬山東部じねんじょ部会の取組に対して、多くの方から質問がありました。ジネンジョの産地振興のために、各産地がどのように取り組むかを模索していることが感じられました。

